



## 2005年度の委員会活動

1. 委員会（全体会）
  - ・委員会全体として検討、確認すべき事項について議案を設定し、議論および合意を図る。
2. 分科会（グループ）活動・・・開催頻度1回／月（集合方式、又はeミーティング方式）
  - ・業種（製品）別に複数グループ編成を行い、リバーズロジスティクスの視点から、将来のあるべき循環型ビジネスモデルと、その実現課題の抽出と解決策について検討を行う。
  - ・委員会（全体会）では、各分科会グループより、検討経過（結果）について発表していただく。
  - ・発表内容については、委員会期日までに各分科会にてまとめ、事前に事務局までメール添付にてお送りいただく。
3. 勉強会
  - ・委員会（全体会）開催の際、委員会メンバーまたは外部から講師を招き、情報交流を行う。
    - ◆第12回       ホンダロジコム(株) 鈴木氏
4. 見学会
  - 3回程度／年       ※希望者を募って実施
  - ※見学に関わる費用（交通費等）は各自ご負担となります。
  - ◆第5回見学先   日 時：11月4日（金）～5日（土）   （4日：見学、5日：個別視察）
  - 見学先：マテック、環境開発工業（北海道）
  - 参加者：12名（事務局2名含）

### 【2005年度委員会、分科会、勉強会、見学会開催（予定）】

|                         | 2005年           |                 |      |                |                 |      |                  |                  |      | 2006年           |                 |    |
|-------------------------|-----------------|-----------------|------|----------------|-----------------|------|------------------|------------------|------|-----------------|-----------------|----|
|                         | 4月              | 5月              | 6月   | 7月             | 8月              | 9月   | 10月              | 11月              | 12月  | 1月              | 2月              | 3月 |
| 1. リバーズロジスティクス<br>調査委員会 | 第10回<br>4/14(木) | 第11回<br>5/27(金) |      | 第12回<br>7/5(火) | 第13回<br>8/30(火) |      | 第14回<br>10/11(火) | 第15回<br>11/25(金) |      | 第16回<br>1/24(火) | 第17回<br>2/24(金) |    |
| 2. 勉強会                  | 第7回             | 第8回             |      | 第9回            | 第10回            |      | 第11回             | 第12回             |      | 第13回            | 第14回            |    |
| 3. 分科会                  |                 |                 |      |                |                 |      |                  |                  |      |                 |                 |    |
| 1) 家電・OA機器              | 第10回            | 第11回            | 第12回 | 第13回           | 第14回            | 第15回 | 第16回             | 第17回             | 第18回 | 第19回            | 第20回            |    |
| 2) 自動車                  | 第10回            | 第11回            | 第12回 | 第13回           | 第14回            | 第15回 | 第16回             | 第17回             | 第18回 | 第19回            | 第20回            |    |
| 3) 食品                   | 第10回            | 第11回            | 第12回 | 第13回           | 第14回            | 第15回 | 第16回             | 第17回             | 第18回 | 第19回            | 第20回            |    |
| 4) 物流                   | 第10回            | 第11回            | 第12回 | 第13回           | 第14回            | 第15回 | 第16回             | 第17回             | 第18回 | 第19回            | 第20回            |    |
| 4. 見学会                  |                 |                 |      | ※2004年度実施月     |                 |      |                  | ※2004年度月         |      |                 | ※2004年度実施月      |    |

※報告書完成   2005年12月（予定）

※第4回本会議   2006年 3月（予定）

以 上

リバースロジスティクス調査委員会  
分科会の活動状況

|      |            |
|------|------------|
| 分科会名 | 家電・OA機器分科会 |
|------|------------|

1. 調査テーマ（品目等）

- ・ 静脈物流共同化プラットフォーム構築のための推進体制提案
- ・ 提案に必要なデータ収集のための調査活動（実態調査、各社の期待や要望調査など）
- ・ 調査結果の整理・分析と最終報告書への反映

2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

- ・ 10 / 28、11 / 17 分科会開催
- ・ アンケート調査結果の整理と分析結果について意見交換した  
整理と分析については事前に坂弥、石渡、横山で検討し、分科会で意見交換
- ・ アンケート調査回答は13社（調査依頼33社の40%）  
回答数は少ないが、傾向などはつかめたと判断した
- ・ 最終報告書作成に向け活動を開始した  
最終報告書作成分担は以下の通り  
前書き：横山  
共同化の目指すべき姿：坂弥  
アンケート調査結果：石渡  
実現に向けた検討体制の提案：坂弥  
あとがき：横山
- ・ 作成担当部分について各自が最終報告書のドラフトを作成し、電子メールなどにより分科会メンバーに事前に配布し、意見交換しながら作業を進めた
- ・ 11月17日に作成分担者が、分科会メンバーから届いた修正案に基づいたドラフトを持ち寄り、読み合わせをしながら、修正、追加、削除などを行い、出席者で改訂の合意を見た
- ・ 11月25日の分科会で、改定したドラフトを持ち寄り、最終読み合わせを行う
- ・ 12月22日の分科会までに最終報告書としての体裁を整え、原案完成としたい

以 上

リバースロジスティクス調査委員会  
分科会の活動状況

|      |        |
|------|--------|
| 分科会名 | 自動車分科会 |
|------|--------|

1. 調査テーマ（品目等）

- (1) リサイクル自動車部品（中古部品）
- (2) 廃タイヤ

2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

- (1) リサイクル自動車部品 調査報告ドラフト 11/25、同完成 12/20 を目指す

・リサイクル部品販売ネットワーク「NGP」へのヒアリング（10/28）。分科会の提言を中心に意見交換。賛同を得た。（内容は下記）

1. 業界としての自主目標値の設定  
目標達成に向けて、リサイクル部品供給業界、整備業界、自動車メーカー、保険業界などが必要な行動計画や施策を講じていくための目標を掲げる。
2. 一般ユーザーが認知しやすい広報やPR活動
  - (1) 政府や地方自治体がリサイクル部品利用を広報・PR
  - (2) 自動車メーカーが環境活動の一環としてリサイクル部品を利用PR
  - (3) 保険業界のリサイクル部品利用特約をさらに拡大、PR
  - (4) メーカー系列ディーラーへの在庫検索ネットワークの開放
  - (5) 一般ユーザーがリサイクル部品の価格情報、品質情報を取得できるサイト
  - (6) リサイクル部品がエコマークやグリーンマークなど公的な認証を獲得
  - (7) 品質基準のスタンダード化 まず、業界としての統一基準、次はJIS化 など
3. 業界が一体となって取り組める体制づくり

・なお、行政への要望としては、国土交通省の関与を求める意見があった。

- (2) 廃タイヤ

①大手解体業者（北海道）ヒアリング実施

- ・北海道地区で500万本/年発生（うち輸出200万本/年、処理300万本/年）  
（年間の総本数の5%、廃車時発生分の約20%に相当）
- ・現在はタイヤチップの需要大、単価150%程度値上がり
- ・使用済自動車から回収したタイヤのうち約20%が中古タイヤとして再販、残り80%のタイヤを産廃として処理。トータルでの収支は黒。
- ・「現状では処理に困っている業者はいないと思うが、違法行為をしようと思えば出来てしまう。マニフェストの徹底が今後のキポイント（行政の課題）」とのコメントがあった

②都内タクシー会社（220台保有）情報

- ・基本的には新品タイヤと引き換えに業者が廃タイヤを引き取っている。以前は何でもトラック一杯でいくらの世界、今は部品ごとにキチンと処分している。N=1ではあるが、特に問題なく処理されている模様。

③今後の進め方

全体的に遅れ気味、日程挽回すべく努力中

- ・調査結果全体まとめ 11月下旬
- ・関係者（民）とのディスカッション 12月上旬
- ・最終まとめ 12月末迄

リバーズロジスティクス調査委員会  
分科会の活動状況

|      |       |
|------|-------|
| 分科会名 | 食品分科会 |
|------|-------|

先回会議終了後、臨時に集合し下記内容で活動

- ① 加工食品の返品商品の共同回収ニーズのアンケート回収の依頼  
→ J I L S さんにお願いしているが殆ど追加回収ができていない。
- ② 最新事例の回収  
→ 現在各自分担をきめて回収。
- ③ コンビニ事例によるケーススタディのシュミレーション  
→ シュミレーションパターンをきめて現在算出中

2. 調査テーマ等の検討経緯、課題など

★報告書の形式の討議

別紙進行方法とスケジュール確認を臨時会議で実施

- ① メーカー・卸の廃棄物実態のアンケート調査を追加回答依頼を行う
- ② コンビニエンスストアの廃棄弁当の共同回収プラットフォームの提案  
関東エリアをサンプルに共同回収と単独回収でのシュミレーションパターンの決定
- ③ 業種別再生利用の最先端の事例調査
- ④ 課題の抽出と解決策の検討

★今後の確認

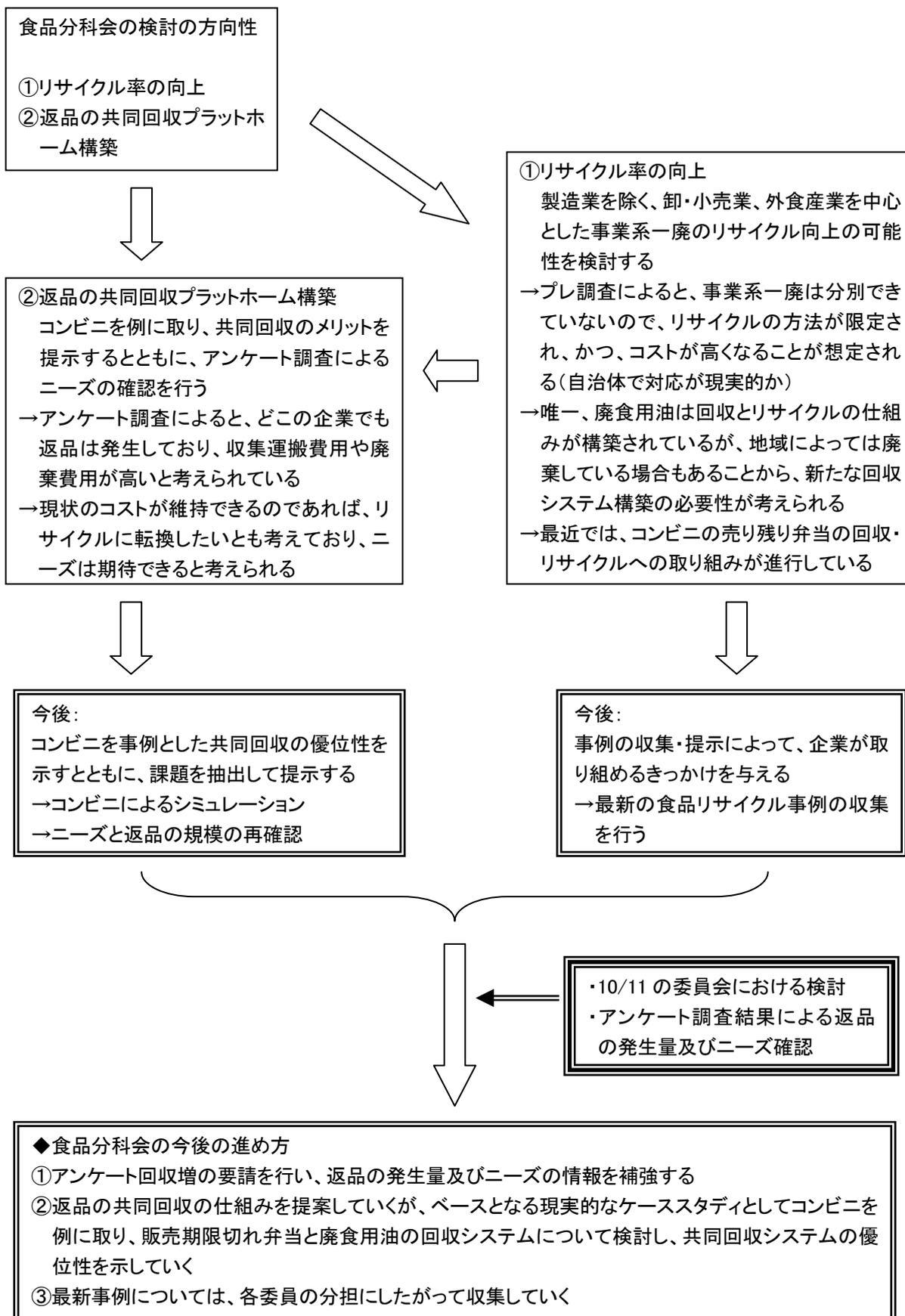
- ① コンビニ共同回収シュミレーション結果による討議
- ② 再生処理施設の実態調査
- ③ 再生処理施設の能力の確認による、共同プラットフォームの仕様・機能検討
- ④ 事業化の投資効果推定による評価
- ⑤ 最新事例の集約強化

★スケジュール修正確認

以上

◆食品分科会の検討の流れとアンケート調査結果の整理

○前回プレ調査の結果を踏まえた本分科会の検討方向性



◆食品分科会の具体的な進め方（案）

- ①アンケート結果の増強→J I L Sに再回収依頼する
- ③最新事例の収集と整理→粛々と進める（10月下旬には集める→11/25の委員会には整理）

②コンビニの事例によるケーススタディ（シミュレーション）

- ・いくつかのパターンによって回収システムのコストを確認する

パターンイメージ

|               | 回収（中継）<br>拠点の有無 | 店舗密度    | 試算項目  | 設定条件  |
|---------------|-----------------|---------|---|---|
| シミュレーションパターン1 | 有り              | 高い（都心部） | ・収集運搬費<br>・回収（中継）拠点<br>運営費<br>・拠点→処理施設間<br>運搬費 等・・・ | ・店舗密度（実態把握による）<br>・店舗間距離など<br>・排出ロット<br>・分別の有無 等・・・ |
| シミュレーションパターン2 | 有り              | 低い（郊外）  |   |   |
| シミュレーションパターン3 | 無し              | 高い（都心部） |   |   |
| シミュレーションパターン4 | 無し              | 低い（郊外）  |   |   |

- ・コンビニの店舗の状況など10月末までに、シミュレーションの条件を設定して各委員に確認できるようにする。

参考：返品発生量の推計

◆昨年度のヒアリング結果とあわせた企業の規模と返品発生量の分析

| 企業名               | 売上高(事業<br>報告書等から<br>抜粋)<br>(億円/年) | 従業員数<br>(人) | 返品割合<br>(%) | 返品重量<br>(トン/年)     | 売上高当<br>たり返品重量<br>(トン/億<br>円・年) | ※売上高当<br>たり返品重量推<br>計値<br>(トン/年) |                  |
|-------------------|-----------------------------------|-------------|-------------|--------------------|---------------------------------|----------------------------------|------------------|
| ヒア<br>リ<br>ン<br>グ | A                                 | 10,730      | 4,013       | 0.65               | 約4,000<br>(5kg/ケース換算)           | 0.37                             |                  |
|                   | B                                 | 1,580       | 2,435       | 1.0~1.5            | —                               | —                                | 下限：117<br>上限：585 |
| アン<br>ケ<br>ー<br>ト | C                                 | 1,370       | 2,300       | (液体)0.2<br>(固体)0.5 | —                               | —                                | 下限：101<br>上限：507 |
|                   | D                                 | 4,360       | 1,197       | —                  | (液体)44.3<br>(固体)280.5           | 0.074                            |                  |

※：D社を下限、A社を上限として推計

—：不明あるいは秘匿

◇1社当たり平均返品重量(年、全国ベース)

(各社の返品割合、返品重量から単純に平均値算出。なお、返品重量は、売上高あたり返品重量A社：0.37、D社：0.074の平均値0.222を、B社及びC社に適用して推計した)

|    | 売上高(事業<br>報告書等から<br>抜粋)<br>(億円/年) | 従業員数<br>(人) | 返品割合<br>(%) | 返品重量<br>(トン/年) | 売上高当<br>たり返品重量<br>(トン/億<br>円・年) | ※売上高当<br>たり返品重量推<br>計値<br>(トン/年) |
|----|-----------------------------------|-------------|-------------|----------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 平均 |                                   |             | 0.75        | 1,245          |                                 |                                  |

参考：東京都発着貨物の流動量は、全国約7%を占める。→都内で返品が7%排出と仮定

食品分野の東証1部上場企業数は73社。

単純に73社の7%が回収できたとしたら、 $1,245 \times 73 \times 0.07 = 6,362$  トン/年 の規模はある？

食品分科会 今後のスケジュール（案）

| 項目                            | 17年 |   |  |  | 18年     |         |
|-------------------------------|-----|---|--|--|---------|---------|
|                               | 9月  | 10月   | 11月  | 12月  | 1月以降    |         |
| A. 加工食品の返品に絞ったニーズの把握          |     |   |  |  |         |         |
| ア) アンケート内容の確認                 | ↔   |   |  |  |         |         |
| イ) アンケート実施                    |     | ↔   |  |  |         |         |
| ウ) とりまとめ                      |     |   | ↔  |  |         |         |
| B. 対象商品の拡大(コンビニ弁当によるシミュレーション) |     |   |  |  |         |         |
| ア) シミュレーション条件の設定              | ↔   |   |  |  |         |         |
| イ) シミュレーションの実施                |     | ↔   |  |  |         |         |
| C. 共同プラットフォームの提案              |     |   |  |  |         |         |
| ア) 施設機能の設計                    |     | ↔   | ↔  |  |         |         |
| イ) 処理方法の提案                    |     | ↔   | ↔  |  |         |         |
| D. 事例集作成                      |     |   |  |  |         |         |
| ア) 事例の抽出                      | ↔   |   |  |  |         |         |
| イ) 事例整理・報告資料作成                |     | ↔   |  |  |         |         |
| 食品分科会報告書作成                    |     |   |  | ↔  |         |         |
| 委員会● 分科会◇                     |     | ●<br>11   | ◇<br>上旬  | ●<br>25                                    | ◇<br>中旬 | ●<br>24 |
| 委員会での検討内容・報告内容                |     | ●委員会<br>○報告内容<br>・ニーズ整理（アンケート結果）<br>・事例集の提示<br>○検討内容<br>・シミュレーション条件のすりあわせ<br>・プラットフォームの機能検討 | ◇分科会<br>○報告内容<br>・シミュレーション結果<br>○検討内容<br>・プラットフォーム案<br>●委員会<br>○報告内容<br>・シミュレーション結果<br>・プラットフォーム案<br>○検討内容<br>・報告書の構成・内容 | ◇分科会<br>○検討内容<br>・報告書の内容<br><br>⇒修正して報告書完成 |         |         |

リバースロジスティクス調査委員会  
分科会の活動状況

|      |       |
|------|-------|
| 分科会名 | 物流分科会 |
|------|-------|

調査テーマ（品目等）

- (1) 宅配用包装の通い箱化

1. 宅配用包装関連

(1) 調査経緯

分科会でのビジネスモデルの概略は一応できたが、実行段階では宅配企業レベルでの実現可能性に関する調査が必要との認識から、企業訪問を実施。

- ・ 11月21日 : 日本通運 及び ヤマト運輸
- ・ 11月24日 : 佐川急便

(2) 訪問の状況

各企業とも、環境重視のうねりの中で、何らかの対応をしなければならないとの共通認識を持っているとの感触を得た。ただし、あくまで個々の企業活動の範疇内であり、今回提案のような普遍的（国家規模的）な「商品」「ビジネスモデル」のレベル認識ではないといえる。

宅配企業としての課題・感想には以下に示す。

- ① 宅配の8割を占める企業発を取り込むには、企業固有標準をクリアすること。即ち、C to Cと同時にB to Bを考慮した方がスタートしやすいと思われる。
- ② 都市と地方間の標準箱の「偏在」をクリアすること。
- ③ 回収に掛かる費用が「使用料200円」で可能かどうか。
- ④ イニシャルコスト負担を協賛企業広告で行なうことは可能性がありそう。
- ⑤ 一般顧客（C）が使ってくれるかどうか、やや懐疑的である。
- ⑥ 現状のダンボールを「回収」することからスタートすれば、新モデルに移行しやすい。
- ⑦ 何らかの形でコンビニを含めた還流システムが良さそうである。
- ⑧ 環境対応だけでなく、少子高齢化（特に高齢化）も考慮したシステムが良さそう（社会的認知が得やすくなる）。

(3) 今後の進め方

分科会で検討できることはほぼなくなったと言え、宅配企業、コンビニ、行政などによる「スタディーグループ」を設置し、コーディネータ的な役割を分科会が受ける、というような提案に対して、宅配企業の参画は可能との解答を得た。